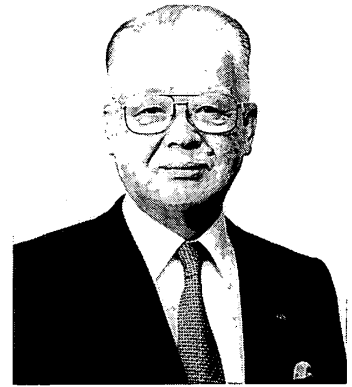


OR 学会会長退任の挨拶

第20代会長 村井 勉



会長就任したのが昨日のように思われるほど、この2年間はあっという間に過ぎ、退任挨拶を申し上げるに際し、月日の経つのは早いものと実感しております。

この間、本学会では APORS 福岡会議の開催等のイベントを始め、春秋の研究発表大会や各種研究会等もつつがなく開催することができました。

これもひとえに関係の皆様始め会員各位のご尽力の賜と深く感謝致す次第であります。

一方世間に目を転じれば、誰もが予想し得なかった阪神・淡路大震災の発生、猫の目のように変わる政治の混迷、未だかつてなかったような長期にわたる景気の低迷、日本の官庁の象徴ともいえる大蔵省の権威失墜等、いわゆる変革の時代に突入したのでした。

このような環境下、本学会も会員数が低迷するなど厳しい状況に置かれておりますが、このような事態を克服するためにも、さらに上述しましたような時代にこそ真価を発揮することが発展の道につながるとの認識に立ち、OR 学会の役割は何か、またどうあるべきかというテーマについて、今まで以上にご議論と新たな取り組みをお願い致したいと思っております。

この一方で、来年度は学会創立 40 周年という大変意義深い年であり、社会への貢献と学会の存在をアピールする多岐にわたり有意義な企画が予定されております。

これの実行は、近藤次郎先生を委員長とする記念事業企画推進委員会を核として具体的に推進頂くことになっております。私自身も本計画策定に

はいささかなりとも参画させて頂いた以上、会長は退任致しますが、微力ながら引き続きお手伝いさせていただき所存であります。

会員皆様の一層のご協力もあわせてお願い申し上げます。

さて、新会長になられる刀根先生は、ご専攻の分野では立派なご業績を上げられており、さらに OR 学会活動には草創の期より非常にご熱心に取組まれ、学会要職も経験されてこられた方であり、後事をお任せするに最適ではないかと思っておりますとともに、心強いものがございます。

今後、21 世紀に向けた学会の発展へのご尽力に加え、創立 40 周年記念事業という大仕事を無事成し遂げられますことを切にお願い申し上げます。

最後になりましたが、私自身、学会の会長というのは初めての経験であり在任中はそれなりに緊張したこともありましたが、幸いにも重責を全うできたことで心安らかなものがございます。

また、この学会活動を通じて、今までとは異なる分野の先生方ともお近付きになることができるなど、「一期一会」をモットーとする私にとりましては、大きな収穫が得られました。

これまでの私の人生は自らの意志に反することばかりで、いわば「凶らずも」という連続でありました。このような人生を送ってきた私の指針とする歌を皆様にご紹介致し、締めくくりの言葉としたいと思います。

「越えなんともし峰に来てみれば、また行く先は山のまた山」どうもありがとうございました。